

1. 概要：

- ・総勢12名で「なぜ勉強するのか？」という問いを掲げて、主に、勉強とは何か、直接役に立つ訳ではないが良いとされている効果は何か、について対話し考えた。

2. 対話：

(0) 問いの提起：

- ・進行役から、生徒・学生時代に勉強が好きだったか、大人になった今はどうかを聴いた上で、「なぜ勉強するのか」という問いを掲げて、まずは「勉強とは何か」の問いで対話を始めた。

(1) 勉強の具体例：

- a) 文字や掛け算、b) 難しい哲学に関する読書(大学受験勉強が嫌になった時に何もしないことは自分では許容できなかったが、これは許容・正当化できた)、c) TVゲーム(ドラクエで有効な武器を揃えるため金銭を貯める必要性から小学3年で3桁の足し算引き算ができるようになった)、d) 6月の登山(山頂には残雪があることを改めて認識した)、e) 知らない土地へ旅行する際の下調べ(楽しく、勉強を入口だと認識できた)、f) 三角関数(子供から何の役に立つのかを訊かれた)、g) 詩や伊勢物語(直接役に立つ訳ではない代表例として)

(2) 勉強とは何か：その1～類語との比較から：

- ・類語として学ぶ、学習、勉強がある。知識を習得するという意味では学ぶ、学習、勉強は一緒。<学ぶ>は「真似ぶ」が語源であり、大人のやり方を真似ること。<習う>は繰り返して教わること。<勉める>は「努力して事を行う」ことで<強>があるから、頑張って努力すること。仏教の言葉で、ひたすら念仏を唱えることで良いことがあるという教えから、良く分からないが頑張る。修行のように辛い思いをする。→苦しいことをやれば必ず良いことがある訳ではない。
- ・勉強は答えがあることを得ることである。

(3) 勉強とは何か：その2～大人の視点・子供の視点から：

- ・勉強は興味があることを深めていくことである。大学の専門では、教科書のようなテキストにないことを知り、面白くなる。未踏の土地へ旅行する際にその歴史・文化を調べる。勉強はその入口である。
- ・勉強は大人になると楽しくなる。なぜか。
- ・自分の子供に訊いてみた。子供にとっては「強制されてやらされる、やらないといけないもの」である。
- ・子供から挙がる「なぜ勉強をしなくてはならないか」という問いについて考えた。子供は遊びに対して、「なぜ遊ばないといけないか」とは問わない。つまり子供は勉強についてピンときていない。遊びでは、そのプロセスの中に自分がずっと居続けることができる楽しさがあるのに対して、勉強では、必ず結果(ゴール)を求められる。なぜ勉強においてもそのプロセスの中に居続けてはいけないのか。ゴールへ向かわされ続けることになる。他方、大人の勉強には、自分で設定する以外の強制されたゴールがないから気楽であり、だから楽しい。
- 教育制度の話だが、子供が勉強で求められるゴールの究極の姿が大学受験である。だから、楽しくない。
- 結果とプロセスは完全には対立ではない。これをやると何かありそうだという予感があり、ぼんやりとした結果を期待している。
- ・ほとんどの勉強は大人になってからでもできる。子供時代にしかできない勉強がもしあれば、その時代にやっておくべきである。

(4) 直接役に立つ訳ではないが、良いとされている効果は何か？

- ・山の中で暮らす生活を想像してみる。どの植物は食べることができてどれはできないかを知ることは、①生活に直接役に立つ。一方でそのように直接役に立つものとは別に、②その効果がよく分からないが、良いとされているものがある。この2つは区別して考えた方が良い。
- ・②は、役に立つか否か、見返りがあるか否かは分からない。権威ある人達は意味があると語っている。そういう勉強は自分が余命1ヶ月になったらやらない。→その考えの前提には、勉強による②の効果を、自分がある程度長生きしてその期間内に得たいと期待するからか？→そうである。
- ①と②は離れているようで、実はくっ付いている。小学生の子供が分数を習った頃のテストで、時間が余ったから答案用紙裏面に分数と少数の関係を考えた経過を書いた。先生からは子供が「探究心が旺盛」と評された。①の背景やつながり等に興味を持つことは②だが、①と全く関係がない訳ではない。
- ・勉強の中でも特に数学、微分積分は嫌いだったが、たまに分かると楽しかった。大人になってすっかり忘れていたが、全く役に立っていない訳ではない。人と話をする場面で自分でも良く分からないことを説明する際に、何か数学の勉強が役に立つというか良い影響を受けている気がする。→強く同意する。
- 大きな問題を小さな問題に分け、小さな問題を大きな問題へ統合するという思考のテクニックに通じる。
- ②の効果は、その勉強をした当事者の人格や文化的な側面に現れる。
- ・②は、その当事者の(内側か外側かは関係ない)何かが大きくなったり、広がったりすることである。
- 何が大きくなったり、広がったりするのか。→その当事者の世界の捉え方ではないか。
- 今まで自分が知らなかった世界の捉え方を新たに知ることは自分にとってショックで、ストレスがあるはずなので、その後には不快感を抱くことにならないか。
- 一時的なショックはあるかもしれないが、その新しい世界の捉え方を得ることにより自分の中に選択肢が増えて世界の多面的な捉え方ができるようになる。そのため、世界を臨む解像度が上がったり自由度が増えたりするはずではないか。

3. まとめ

- ・提題者には対話前に「勉強は何かの役に立つ」との説明に漠然とした違和感があった。勉強には直接役に立つと言いつつ良いとされるものがある点や、勉強が役に立つか否かだけで評されることに納得できない点を抱えていたからである。今回の対話ではその一端を掴むことができ、少しだけ答えに近づけたと思っている。